



給食で地産地消



県地区で採れたナス



四日市の 農業力を知る

本市は農業に適した気候条件に恵まれ、交通網も発達し、大都市圏へのアクセスも良いことから、市内西部を中心に多彩な農産物が生産され、有名なお茶だけでなく、野菜や牛肉・豚肉などの畜産物も四日市の農業を支える力となっています。

今回は、本市の農業を取り巻く状況と、新たな取り組みについて特集します。

ちゃんねる
連動



今回の特集の内容は、市政情報等提供番組「ちゃんねるよっかいち」でも紹介します。

- 地デジ12ch(CTY)
- 8月21日(火)～31日(金)に放送
月・水・金・日曜日 9:30、20:30
火・木・土曜日 12:30、20:30



四日市の生産物を知っていますか？

本市は、都市部への交通アクセスが良いことから、鮮度の高いものを時間や費用をあまり掛けずに名古屋や大阪などに届けることができます。

こういった利点を生かしながら、市域の6割を占める農業振興地域で米を主体に、ハクサイなどの露地野菜や茶、施設栽培の花き、メロン、トマトなど、一年を通してさまざまな農作物が生産されているほか、牛や豚などの畜産業も盛んです。

ハクサイ	メロン	魚介類
キャベツ	肉牛	はまぐり
トマト	豚	鉢花
しいたけ	養鶏	観葉植物
イチゴ	はちみつ	切り花・花苗
みかん	酪農・乳製品	切り花・花苗
なし	お茶	ブルーベリー



米・麦類は市内全域で栽培されています。

四日市の農業を取り巻く状況と課題

- 農業人口の減少
- 農業従事者の高齢化、後継者不足
- 耕作放棄地の増加



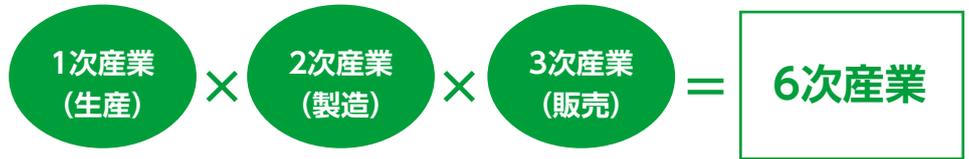
近年、農業従事者の高齢化や後継者不足、新規で農業に取り組む際の敷居の高さなどによって、農業の担い手が減少しています。また、農作物価格の低迷など、農業を取り巻く状況は厳しく、耕作が行われない土地が増加しています。これにより、荒廃していく農地の管理も大きな課題となっています。

元気な農業に向けた取り組み



農林漁業の6次産業化

農林漁業者(1次産業)が生産物の元々持っている価値をさらに高め、農林漁業者の所得(収入)を向上させていくことを**6次産業化**といいます。生産物の価値を上げるため、農林漁業者が生産だけでなく、食品加工(2次産業)や流通・販売(3次産業)にも取り組み、それによって農林水産業を活性化させ、農山漁村の経済を豊かにしていこうとするものです。



「6次産業」という言葉の6は、1次産業だけでなく、2次産業・3次産業を取り込むことから、1次産業の1×2次産業の2×3次産業の3を掛け合わせた6を意味しています。

素材とレシピにこだわり

農場では90品種以上のブルーベリー栽培と、ブルーベリー狩りをしています。お客さんからの要望もあって、ブルーベリーを使った商品の製造を始めました。

自社の加工施設を持っていないので、県内の加工会社に依頼しています。当初は自分のこだわりと加工者のこだわりがぶつかってしまい苦労しましたが、納得のいく商品ができました。

おいしいブルーベリーを栽培することでおいしい商品が出来上がりますが、加工に力を入れすぎると、栽培がおろそかになってしまい味が落ちてしまうので、バランスを取ることが難しいです。

現在は、ジャムやお酢を製造していますが、今後はさらにブルーベリーのジュースや飲食店とコラボした商品を作るなど、新しいことをしていきたいですね。



ブルーベリー

山原忠彦さん
裕美さん
(Sakura Berry's Garden)



吉田菜穂子さん
(ひなた農園)



試作中のピクルス



栽培中のパプリカ

メイド・イン四日市の商品を

西洋野菜を中心に作っており、飲食店などからの需要も多いのですが、収穫量の増加もあって、販売しきれない野菜をどうするか考えていました。そんなときにお酢の製造業者さんと知り合い、ピクルスの製造に取り組み始めました。

ピクルスの加工を障害者福祉施設に依頼したり、ラベルのデザインを四日市市出身のデザイナーに依頼したりして、メイド・イン四日市の商品を目指しています。

ピクルスの商品化によって、自分の作った野菜が多くの人に届くことを期待しています。



未来を担う農家の卵

少子高齢化、担い手不足が深刻な農業。これからの農業を担う貴重な人材が新規就農者です。本市では新規就農者が農業を始めるために必要な支援を行っています。



増田裕子さん
(増田ベジタブルファーム)

自家製野菜の味に感動

農業センターのビギナー研修で自分の作った野菜の味に感動したことが、農業を始めたきっかけです。水沢町の農地は山からの風が強いため、市の制度を利用して、防風ネットを設置しました。

一人でやっているので力仕事も多く大変ですが、自分の背で届くところで野菜の成長を抑えるなどの工夫をしながら、おいしい野菜を作っていきます。



防風ネット

新規就農者支援事業補助金について詳しくは市ホームページ(HP ID 1523842016659)をご覧ください。

こんな制度も
あります

農地バンク制度

市が農地を「貸したい」という情報を集めて、農業のために農地を利用したい人に提供する制度です。農地の効率的な活用を図っています。



農業を
始めるために
農地を借りたい

農地バンク制度について
詳しくは市ホームページ
(HP ID 1001000001407)を
ご覧ください。

荒れた農地を復活

耕作放棄地と呼ばれる荒れたままの農地が全国で増えており、本市も例外ではありません。一度荒れてしまうと、元に戻すのは簡単なことではありません。本市では、この耕作放棄地を農地として復元し、管理する人への支援も行っています。



古市善浩さん
(古市製茶)

田畑の荒廃を食い止める

田畑の荒廃が進むとイノシシが巣を作ってしまったたり、近隣の田畑に雑草の種が飛んで来たりするような被害が出ます。

荒廃した農地を復元して、新たにお茶の木を植えたり、水田を復活させたりしていますが、茶と米の作業時期が重なって大変なことも多いですね。小山田地区も農家の数は減ってきていて、管理されなくなった農地は荒れていくのも早いので、できる限り早い時期に食い止めて、新しい担い手に引き継げるように頑張りたいです。



植えたばかりの茶の木

優良農地復元化事業費補助金・奨励金について詳しくは市ホームページ(HP ID 1523842016659)をご覧ください。

地産地消の推進

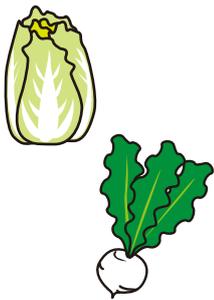
四日市ふるさと給食の日(12月)



本市では、平成25年度から「四日市ふるさと給食の日」を設けています。「ふるさと給食の日」には、市内の公立小学校にゲストティーチャー(生産者)を招き、栽培方法や栽培時の苦労などを話してもらいます。また、生産者が栽培した農作物を使った給

食を生産者と子どもたちが一緒に食べて交流します。

子どもたちが生産過程を知り生産者の思いに触れることで、農作物を身近に感じ、食べ物への感謝の気持ちが育つよう取り組んでいます。



「四日市ふるさと給食の日」ゲストティーチャー
堀田健一さん(マルホ農園)

平成26年に農業を始めましたが、収穫した野菜を四日市市の学校給食用に出荷する中で「四日市ふるさと給食の日」を知りました。

地元の生産物を地元で消費し、地元根付いた農業を目指していたこともあり、講師として参加することになりました。

昨年12月に自分の出身校でもある県小学校の授業に行き、持参したブロッコリー・カリフラワーに関する話やクイズをしました。この授業を通して知ったことや感じたことが、野菜に興味を持つきっかけになってくれたらと思っています。

都市部に住む子どもは身近に田畑がないことが



多いので、そんな子どもたちにも小さい頃から野菜や農家に触れて、興味を持ってもらえるよう、今後できるだけ多くの学校に行きたいです。

地域とつながる学校給食



このネギも
四日市市産!

毎日の学校給食においても、生産農家や納入業者などと連携し、地元で採れた旬の農作物を優先的に使用しています。また、地場産物を食育の教材として活用することで、地域の文化や伝統などへの理解を深め、子どもたちの郷土を愛する心を育てています。





茶業の振興のために

お茶を知る お茶の工房 茶業振興センター

茶業技術の発展、茶業従事者の技術向上ならびに茶の消費拡大により茶業の発展を図るという目的で平成4年に設置された「茶業振興センター」が、移転し新しくなりました。新施設では、これまでの機能に加え、新たに調理体験室やイベントスペースなどを整備しました。より多くの人にお茶の魅力を知っていただける施設を目指していきます。



四日市市茶業振興センター

水沢町字西野252-63 ☎329-3367
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌平日)・年末年始
開館時間/9:00~22:00

第71回関西茶品評会

四日市では
15年ぶりの
開催です!

関西茶業協議会に加盟する6府県(三重県・岐阜県・愛知県・滋賀県・京都府・奈良県)で生産される茶の品評会「第71回関西茶品評会」が、7月31日から8月2日に四日市市で開催されました。この品評会は生産技術や品質向上を図るとともに、茶の国内需要の増進、6府県の茶業振興、ならびに日本茶業の発展に寄与する目的で毎年開催されています。また、11月10日(土)に四日市市民公園(博物館前)で、茶消費拡大イベントが開催されます。この機会にぜひ、四日市の特産品であるお茶を飲んでみませんか。



今後の四日市の農業の発展について

農業は今、農業従事者の高齢化による担い手不足や耕作放棄地の増加など、深刻な問題に直面しています。

そのような中でも、6次産業化や直販、GAPの取得など、経営の改善に取り組んでいる農家が増え、また、新たに農業を始め、地域の担い手として活躍している人もいます。

農業委員会では、農家への農地の集積・集約化を推進するとともに、優良農地復元化事業や農地バンク制度などを活用しながら、農家の皆さんをサポートし、また農地環境を整備して、新たな農業の担い手が参入しやすくなるように努めていきます。



四日市市農業委員会
会長 藤谷克彦さん

●この特集についてのお問い合わせ・ご意見は

農水振興課 ☎354-8180 FAX354-8307
広報マーケティング課 ☎354-8244 FAX354-8315